

北海道支所

総面積550万ha、住民1人当たり1ha。この、全国でもずば抜けて広大な森林を有する北海道は国内最大の木材生産地でもあります。近くにある札幌ドーム約30個分、172haの実験林が付属する北海道支所は、北方の森林管理・林業技術に関する先導的研究を目指しています。

北海道林業に貢献すること、北方森林を保全しその機能を持続的に利用することが私たちの大目標です。緩やかな地形の多い北海道の人工林は、車両系機械を使って効率的に樹木を伐採・収穫するにはもってこいです。先進機械を使って低コスト化や効率アップを図る研究の中で、立木や表土、水質に影響の少ない機械運用方法や作業道の付け方を明らかにしました。また、林業を基幹とする下川町と研究協定を結び、その成果としてバイオマス燃料やナギの栽培マニュアルなども生まれています。

森林は生物多様性、水源涵養^{かんよう}、炭素の蓄積といったさまざまな恵みの供給源でもあります。全森林の7割以上が天然林である北海道において、これらの恵みを定量化し、末永く将来に伝えていくための森林管理・施業方法の開発にも積極的に取り組んでいるところです。



トラップを使った昆虫相の調査（トドマツ人工林）



車両系機械によるトドマツの伐採



炭酸ガスの吸収・放出などを調べるためのタワー（高さ41m）



下川町に設けられたヤナギ栽培試験地